

シュツコンカスミソウの密閉さしによる繁殖法

岡崎 幸吉・小野 恵二*

(山形県立農業試験場・*山形県立園芸試験場)

Method of Propagation of *Gypsophila paniculata* L. by Herbaceous Cutting
in Closed Plastic Tunnel

Kokichi OKAZAKI and Keiji ONO*

(Yamagata Prefectural Agricultural Experiment Station・
*Yamagata Prefectural Horticultural Experiment Station)

1 はじめに

シュツコンカスミソウの繁殖は一般にさし芽育苗が行われている。農水省野菜試の報告によればミスト繁殖室の利用で、周年さし芽繁殖が可能であり、また発根率も90%以上の好結果が得られることが実証されている。

しかし、一般農家ではミスト繁殖室を設置することは困難なので、より簡便なさし芽法の密閉さしの実用性について検討し、その実用的方法を見いだしたので報告する。

2 試験方法

各試験の共通事項は次のとおりである。

- (1) 供試品種 ブリストルフェアリー
- (2) さし穂の調整 ①芽条を10cm程度に切り取る。②5〜7対葉を残し下部葉除去、③3時間前後の水揚げ処理、④さし芽時に発根剤(オキシベロン粉剤)を基部に粉衣、
- (3) さし芽後は十分に灌水し、ビニールトンネルにて密閉した。

3 試験結果及び考察

(1) さし芽用土について

どんな用土が適するかについて検討した結果を表1〜2に示した。昭和57年にはパーライトの種類及びパーミーキュ

表1 さし芽用土と発根 (昭57.山形園試)

区 別	発根本数(本)			枯死 発根 数及び 本数(本)	発 根 率 (%)	最長 根長 (cm)	根 重 (g)
	良	不良	合計				
パーライトP-3号	23	0	23	7	76.7	4.3	0.48
“ 1号	18	4	22	8	73.3	3.2	0.36
“ M1号	2	2	14	16	46.7	2.2	0.16
P-3号+パーミーキュライト	14	0	14	16	46.7	6.0	0.40
1号+“	25	0	25	5	83.3	4.1	0.40
M1号+“	24	0	24	6	80.0	4.9	0.24

注. パーライトの形状 P3号=粉剤 1号=小粒
M1号=大粒 用土の混合比率は等量
供試本数: 30本 さし芽: 9月25日
発根調査: 10月25日
しゃ光: #600二重被覆 灌水: 7日ごと2回

ライトとの等量混合用土について検討した結果、パーライトの単用では粉状のP-3号で77%、混用では小粒の1号混合区で83%と高い発根率を示した。58年度には一般的にさし芽用土として用いられている川砂、赤土、パーミーキュライト、ピートモス等を供試し、それぞれの単用並びにパーライトM-1号との等量混合用土で検討した。

その結果、表2のとおりパーライトP-3号の発根率は

表2 さし芽用土と発根 (昭58.山形園試)

区 別	発根本数(本)			枯死 発根 数及び 本数(本)	発 根 率 (%)	最長 根長 (cm)	根 重 (g)
	良	不良	合計				
パーライトP-3号	25	2	27	3	90.0	5.2	0.74
川 砂	5	7	12	18	40.0	5.0	0.25
赤 土	0	0	0	30			
パーミーキュライト	10	7	17	13	56.7	4.6	0.16
ピートモス		5	5	25	16.7	0.6	0.05
川砂+パM1号	5	5	10	20	33.3	3.0	0.20
赤土+“	0	3	3	27	10.0	1.5	0.10
パーミー+“	11	8	17	13	56.7	3.3	0.10
ピートモス+“	0	7	7	23	23.3	0.4	0.05
鹿沼土+“	5	1	6	24	20.0	5.4	0.25

注. 供試本数: 30本 さし芽: 3月14日

発根調査: 4月19日

しゃ光: #600二重被覆 灌水: 5日ごと2回

90%で最も高く、ついでパーミーキュライトの単用、並びに混合区で57%であり、その他の区の発根率は極めて悪かった。パーライトP-3号以外では発根状態が不良のものが多く、特に赤土とピートモスの区で劣った。

このように2か年の試験で常に安定して高発根率を示したのがパーライトのP-3号であり、密閉さしの用土として適するものと考えられる。

(2) しゃ光及び灌水の方法について

1)しゃ光方法

#600の寒冷しゃを用い一重、二重被覆で検討したが、二重被覆で73.3%と好発根率を得た(表3)。

表3 シャ光及び灌水方法と発根

(昭57.山形園試)

区 別	発根本数(本)			枯死 発根 数及び 数(本)	発 根 率 (%)	最 長 根 長 (cm)	根 重 (g)
	良	不良	合計				
シャ光方法							
# 600 一重	13	7	20	10	66.6	3.1	0.44
" 二重	18	4	22	8	73.3	3.5	0.36
かん水方法							
無かん水	16	3	19	11	63.3	4.0	0.40
14日後かん水	23	0	23	7	76.7	4.3	0.80
7日 "	26	0	26	4	86.7	3.7	0.52
*7日ごと2回	24	3	27	3	90.0		
5日 "	25	3	28	2	93.3		

注. 供試本数: 30本 さし芽 9月25日
 発根調査: 10月25日
 *さし芽: 10月26日 発根調査: 12月14日
 用土: パーライトP-3号 シャ光法の灌水は5日ごと2回 灌水法のシャ光は#600二重被覆

2) 灌水方法

さし芽後十分に灌水したのち、無灌水區とそれぞれさし芽後14日目に1回、7日目に1回、7日ごと2回、5日ごと2回灌水する區を設定して検討した結果、5日ごと2回灌水區の発根率は93%で最も高かった(表3)。

これらのことからシャ光は#600寒冷シャの二重被覆を行ない、灌水はさし芽後5日ごと2回行えば十分である。灌水後は直ちに密閉状態にもどすことが大切である。

(3) 高温期密閉さしの可能性について、

今までの実験はさし芽に適した春秋期に行った結果であ

表4 さし芽時期と発根

(昭57~58 山形園試)

さし芽 時期	さし芽 本数	発根本数(本)			枯死 未発根 数及び 数(本)	発 根 率 (%)	最 長 根 長 (cm)	根 重 (g)
		良	不良	合計				
58.3月14日(35)	30	25	2	27	3	90.0	5.2	0.7
6 21 (20)	95	45	12	57	33	60.0	4.2	0.7
8 3 (20)	120	64	17	81	39	67.5	4.7	0.8
57.9 25 (36)	30	26		26	0	86.7	3.7	0.5
10 26 (46)	30	28		28	0	93.3		

注. ()内はさし芽後発根調査までの日数
 用土: パーライトP-3号 シャ光: #600二重被覆
 かん水: 5日ごと2回

り、高温期の6~8月さしの可能性を昭和58年に検討した。その結果が表4のとおりである。

試験実施期間の気温は半月別平均で最高が22.5~31.7℃の範囲で推移し、8月1日から8月20日までの最高気温は、30℃以上の日が15日間であった。このような高温時期のさし芽でも60~67%の発根率を得ており、十分実用性があるものと考えられる。

しかし、高温期のためさし芽後の茎が徒長気味に伸長するため、密閉状態は20日程度が限界であり、それ以上では発根不良苗が多くなる。そこで密閉トンネルを除去後、鉢上げまで10日程度の期間をおき、シャ光をするなどして徐々にならすことで良苗が得られるものと考えられる。

以上のことから、シュツコンカスミソウの密閉さしは、3月~10月までの期間で実用性が確認された。なお、11月~3月までの低温期間でも、保、加温をすればさし芽は可能なので、密閉さしによる周年さし芽も可能と考える。